

2025 年度 学長計画

2020 年 4 月私学法改正により、大学を設置する学校法人は認証評価の結果を踏まえた中期計画の策定が義務化された。静岡産業大学は、いち早く 2018 年度に「静岡産業大学中期方針」を策定し、これを継承・発展展開させる形で、2020 年度から 2024 年度までの 5 年間の「中期計画」を策定し、これに基づき毎年度の学長方針(アクションプラン)を示し大学の運営を行ってきた。

中央教育審議会大学分科会が 2024 年 8 月に発表した「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について」の中間まとめでは、①急速に進展する少子化は中間的な規模の大学が 1 年間で 90 校程度減少していくような規模で進んでおり、この危機に併せた対応をしなければ、今後は、定員未充足や募集停止、経営破綻に追い込まれる高等教育機関が更に生じることは避けられない。②デジタル化の急速な進展は、世界に対する根本的な構造変化をもたらすとともに発展可能性を有し、DX、GX の中核をなす生成 AI を生かした新たな価値を生み出す人材がますます求められる。③東京圏への一極集中などの大きな流れを変えるには至らず、地方が厳しい状況にあることを重く受け止める必要がある。

静岡県の状況をみると、2023 年 10 月の高校生(16 歳)人口は 33,067 人、0 歳児は 19,627 人とその差は 13,440 人であり、若年人口は急激に減少している。また、静岡県内の大学進学者数は約 17,200 人であるが、県内大学へ入学する高校生は約 4,900 人、12,300 人が県外大学へ進学している。東京圏の入学定員が現状で推移し、高校生数が少なくなると、静岡県内大学への入学者数は大きく減少することが想定される。なお、県内の全大学の入学者定員は約 8,000 人であり、県内の大学進学者の多くは、県外の大学に進学せざるを得ない状況にある。

このような状況を踏まえると、これからの大学運営は、その場しのぎで対応することは難しく、静岡県全体の高等教育における本学の在り方について、行政、産業界、地域と連携して研究し、対応を進めることが求められる。

これに加え、本学は、入学定員、収容定員を確実に確保し、特色ある教育・研究・地域貢献を進め、理念に掲げた「小粒だがキラリと光る個性ある存在」となり、「新しい大学を創造し、大学の新しいモデル」となるよう、2025 年度から 5 年間学長中期計画に基づく大学運営を行う。

1. 基本指針

- (1) 静岡産業大学の「理念」、「ミッション」、「県民大学宣言」を大学運営の基本とし、若年人口の急激な減少に対応し、地域が必要としている人材の育成機関として、実学教育、すべての学生が成長を実感できる「大化け教育」、希望する職に就けるキャリア教育を行うとともに、常に先を見据えた新しい大学の在り方を、行政・産業界・教育機関・地域と研究し、常に教育改革を実践し、5 年以内に収容定員 1900 人を超える学生が学ぶ大学とする。
- (2) 若年人口・生産年齢人口の急激な減少、生成 AI の台頭に伴う人材需要拡大、地方創生の現状、世界情勢・国内社会経済の様々な変化、世界的な留学生獲得競争、リカレント教育・リスキリング需要などに的確に対応した大学改革、教育改革を推進する。
- (3) 質の高い教育機会の提供、人材を育成するため、ふじのくに地域・大学コンソーシアムをプラットフォームとした産官学連携に積極的に参画し、その中で価値ある役割を発揮するとともに、県・市町・産業界などと連携し、本学の研究・教育・地域貢献機能を強化する。
- (4) 常に自己点検評価を行うことを旨とし、中期計画を毎年度の学長計画(アクションプラン)に落とし込み、年度計画を推進する職員と教員の実施責任者を明確にし、IR(Institutional Research)活動と連動した PDCA

サイクルを循環させ、年度計画の達成度・改善を図り、大学運営の品質を高める。

(5) 大学運営は職員、教員が一体となって進めることを基本とし、学生をはじめとしてステークホルダーの満足度を高めるために、常に業務をゼロベースから見直し、働き甲斐のある職場、生産性の高い職場とする。

(6) 教育・研究・大学運営のDXを推進する。

2. 基本戦略と今期の重点政策

基本指針を踏まえ、受験生に選ばれる大学、学びに特徴のある大学、学生生活が楽しくなる大学、希望の職につける大学、ステークホルダーから信頼される大学、教職員が連携して教育・大学運営に当たる大学となるよう7つの基本戦略を設定し、それを具体的な計画として示す。

中期計画(2025年度～2029年度)	2025年度計画
<p>(1)基本戦略Ⅰ 静岡産業大学の将来構想の検討及び実施</p> <p>① 若年人口の急激な減少、社会が求める人材の高度化に対応した大学のあり方の研究</p> <p>② 学部・学科、入学定員、編入学定員、収容定員について、地域・社会に必要な大学を基本に常に見直しを実施</p> <p>③ 定員規模の適正化に関する理事会での協議</p> <p>④ 国内外の大学・高校等との連携協定締結の強化</p> <p>⑤ 「外国人留学生受入と日本人海外留学促進のための中期方針」の見直し</p> <p>⑥ リカレント教育、リスキリング需要に対応した教育研究改革の推進</p>	<p>① 18歳以下の国内・県内人口の推移データ、学校基本調査のデータを分析する 企業等が求める人材を調査・分析する 県内大学、県、市町と高等教育の在り方について情報交換を行う 5年先、10年先の本学のあり方を検討する</p> <p>② 経営学部(磐田キャンパス、藤枝キャンパス)、スポーツ科学部の定員配分を検討する</p> <p>③ 定員規模に関する資料・方向性を理事会に報告し、協議を行う</p> <p>④ 海外協定校(中国、韓国、ニュージーランド)との協定維持 新規海外協定校の開拓(中国、ベトナム、インドネシア、モンゴル、フィリピン、オーストラリア、北米、欧米) 県内外の大学・高校・専門学校との協定維持と拡大を進める</p> <p>⑤ 2025年度までを目途として作成した中期方針の見直しを行い、2029年度を目標年度とした方針を策定する</p> <p>⑥ 本学の教育資源を活かしたリカレント教育、リスキリング教育の検討委員会を設け、できるものから実施する</p>

(2)基本戦略Ⅱ 入学定員、収容定員を上回る入学者の確保

- ① 受験生の動向を踏まえた募集戦略に基づく教職員総力を挙げた募集活動の実施
- ② 入学試験の戦略的メニュー・計画の策定、受験生への適時的確な情報提供
- ③ 県外高校、専門学校、日本語学校、海外協定校などからの入学生の確保
- ④ 社会人が学びやすい制度整備と積極的な受け入れ
- ⑤ 広報の効果測定と効果的な広報の実施
- ⑥ 受験生募集をターゲットにした広報の実施
- ⑦ 高校生・父母に魅力的なオープンキャンパスやイベントの実施
- ⑧ 協定校・系列校への高大接続授業の計画的な実施
- ⑨ 本学受験者、入学者のある高校等への情報提供と連携の強化
- ⑩ 特待生制度の受験生への周知の徹底

(3)基本戦略Ⅲ 教育の質の向上

- ① 3ポリシー(アドミッション、カリキュラム、ディプロマ)の精緻化
 - (ア) 大学、学部の3ポリシーを社会が求める人材を踏まえ見直しを検討・実施
- ②教育の質的転換に向けた教学マネジメントと改革
 - (ア) 学生一人ひとりの入学前から卒業後までの一連の学びの実態・学生満足度を把握(1、3、卒業時の学生成長度の調査・分析)し、支援と結びつけるエンロールメント・マネジメントの実施
 - (イ) 4年間常に学び続ける履修体系の確立及びDPに示した能力の見える化
 - (ウ) 先進的な教育を実施するための教員への支援

- ① 静岡県内、入学実績のある都府県の入学志願者の調査の実施、解析を行う
募集戦略を策定する
募集計画に基づく募集活動を実施する
- ② 2026年度入試計画策定、受験生への情報適用
*入学定員の1.3倍の入学者(経営学部455人、スポーツ科学部156人)を目標とする。
*2024年度末学生数1,790人(収容定員1,900人)
- ③ 航路先地域での募集活動を行う
専門学校・日本語学校の募集活動を行う
東南アジア、モンゴル、欧州、北米、オセアニアでの協定締結に向けた調査を行う
- ④ 社会人受け入れ制度の整備と2026年度受け入れ準備
- ⑤ 2024年度広報の効果測定、2025年度広報計画策定
学生募集・大学のイメージアップに効果的な広報を研究する
教育活動、研究活動、学生の活動などの動画をSNSに掲載する
- ⑥ 2026年度向け効果的な広報を実施する
- ⑦ 2025年入試実績を踏まえたオープンキャンパス計画を策定し実施する
- ⑧ 2025年度計画を策定し計画的に実施する
- ⑨ 過去数年間に入学者のある高校への計画的な訪問ときめ細やかな情報提供を行う
- ⑩ 特待生制度の見直し、受験生へ周知する
*4年間を通じた特待生教育計画を策定する

- ① 3ポリシーの精緻化
 - (ア)2025年度公表に向け、大学・学部の3ポリシーの見直しを進める
- ②教育の質的転換に向けた教学マネジメントと改革
 - (ア)学生個人ファイル(入学前から卒業後までの記録・分析データ)、PROGデータを職員・教員で共有し、学生が成長したと実感できる教育・支援を行う。また、本学の教育の成果をデータで把握するため、PROGの4年次実施を検討する
 - (イ)個々の学生が4年間でDPに示した能力を身に着けることができるよう、履修組み立ての支援・指導を行う
 - (ウ)FD研修会を充実(回数、参加義務付け、方法等)するとともに、教員・職員の他大学等への調査研修を実施する

<p>(エ) 経営学部における磐田キャンパス、藤枝キャンパスで特色ある授業の設定</p> <p>(オ) 学部間履修科目の充実</p> <p>(カ) 『「大化け教育」の SSU』にふさわしい全学共通教養教育、専門教育科目、産学官連携実学教育の推進</p> <p>(キ) 全学年でのゼミ形式の授業を実施、3年生の専門ゼミナール・4年生の卒業研究を必修科目として実施</p> <p>(ク) 図書館の利活用の高度化策の検討と実施</p> <p>(ケ) 夏期休暇期間、春期休暇期間における集中講義</p> <p>(コ) 学生の大半が海外研修、学外研修に参加できる研修授業の実施</p> <p>(サ) 長期留学、短期留学協定校の確保と留学支援策の充実</p> <p>(シ) 海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの研究と提供</p> <p>(ス) 県内外の大学との単位互換授業の拡大</p> <p>(セ) 数理データサイエンス教育を強化し、すべての授業での AI・ICT を活用</p> <p>(ソ) ラーニング・メソッド研究、FD 研修、SD 研修の実施と成果の見える化</p> <p>(タ) 留学生の日本語力の強化、外国語(英語)教育の強化</p> <p>(チ) 英語で授業を行う科目の設定と教員養成</p> <p>③きめ細かなキャリア支援</p> <p>(ア) 1年次～4年次までの計画的なキャリアデザイン授業の実施</p>	<p>(エ)2025 年度のコース設定の教育成果を踏まえて、両キャンパスの差別化を図る</p> <p>地域社会を学びのフィールドにした授業を充実する</p> <p>本学らしい特色あるデータサイエンス教育を実施する</p> <p>(オ)学部間履修の2025年度実績を踏まえて、より学部間履修が進むよう、2026 年度カリキュラムを編成する</p> <p>経営学とスポーツ科学の学びの掛け合わせに関して「独自の視点」を学生・受験生に具体的にわかりやすく説明する</p> <p>(カ)DP に示した「知識・理解」「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」「技能」について、学生が年次が進むごとに実力が上がることを数字で把握できるシステムを構築する</p> <p>(キ)1 年次から 4 年次までゼミ形式の授業を充実する。経営学部は 4 年次の卒業研究の必修化を進める。専門ゼミ・卒業研究の発表会を実施する</p> <p>(ク)学生たちが集う場所になるよう、図書館の多目的活用を検討する</p> <p>(ケ)夏期・春期休暇期間に実施する集中講義・海外研修・学外研修等の科目に関するキャップ制度廃止を検討する</p> <p>(コ)新たな海外研修先、学外研修先の調査・研修プログラムを作成する</p> <p>(サ)新たな留学先の調査を行う</p> <p>(シ)インターネットを活用した海外の大学との教育プログラムを研究する</p> <p>(ス)名桜大学、大正大学への国内留学の学生への働きかけ、また、新たな単位互換協定大学の調査を行う</p> <p>(セ)授業での AI・ICT 活用の先進事例の調査研究と本学での実践授業の公開を行う</p> <p>AI塾による生成 AI を使いこなせる学生の育成について研究し、実現に向け具体化を図る</p> <p>(ソ)カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに示した能力を保証する質の高い教育を進めるために、ラーニング・メソッド研究、研修を見直し実践する</p> <p>(タ)日本語教育研究センターの日本語塾の活性化を進め、日本語検定試験受験支援を推進する</p> <p>(チ)英語で行う授業科目を設定し、実施する</p> <p>③きめ細かなキャリア支援</p> <p>(ア)切れ目のないキャリアデザイン授業計画を策定する</p> <p>中期・長期インターンシップ制度を設計し、カリキュラムに組み込む</p>
---	---

<p>(イ) 学生一人ひとりのプロフィールに応じたキャリア支援・就職支援プログラムの開発と実施</p> <p>(ウ) 過年度卒業生、就職先の調査の実施とキャリア教育へのフィードバック</p> <p>(エ) キャリア支援関連の「塾」の充実と成果分析と結果の活用</p> <p>(オ) 資格取得支援の充実</p> <p>(カ) 社会ニーズを先取りした新しいキャリア支援プログラムの開発と実施</p> <p>(キ) キャリア支援・就職支援関連のデータ情報の取得と活用</p> <p>(ク) 就職先企業と職員・教員のつながりの強化</p> <p>(ケ) 「キャリア支援の静岡産業大学」ブランドイメージの向上</p>	<p>(イ) 学生個人ファイルに個人面談、PROG、就活情報、成績など個人情報に記載し、アドバイザー教員と職員が情報共有するシステムの構築を進める</p> <p>大手企業の採用活動に合わせ、職員と教員が学生の就活情報を共有し、早期に希望企業に内定が取れるように支援する</p> <p>(ウ) 卒業生の就業満足度、就職先企業の本学学生の評価の調査を実施し、データの共有を進める</p> <p>(エ) 就職塾、ビジネス塾の抜本的な見直しと新たな就職支援塾を設置する</p> <p>(オ) 就職に役立つ難関資格取得支援策の充実を図る</p> <p>(カ) 県内企業経営者が必要としている人材・能力の調査に基づくキャリア支援プログラムを組み立てる</p> <p>(キ) キャリア・就職関連情報の随時収集と学生・教員への情報提供を行う</p> <p>(ク) 職員・教員と学生が希望する就職先企業県内優良企業とのパイプの構築と企業訪問を実施する</p> <p>(ケ) 本学のブランドイメージキャッチコピーの設定とブランドイメージ向上策を推進する</p>
<p>④ 研究の卓越性と多様性の強化</p> <p>(ア) 科研費等の外部資金の獲得</p> <p>(イ) 研究力強化のための研究戦略の策定と推進</p> <p>(ウ) 特別研究支援経費の活用</p> <p>(エ) 自治体・企業などとの連携を強化し、地域における課題の解決、地域企業支援に向けた研究開発の推進</p> <p>(オ) 静岡産業大学発のスタートアップ企業設立を推進</p>	<p>④ 研究の卓越性と多様性の強化</p> <p>(ア) 科研費や各種競争的外部資金情報を随時教員に提示し、その申請を促すことを徹底する。大学コンソーシアムや市町の助成金、各種団体の研究助成金、企業との共同研究を積極的に獲得する</p> <p>(イ) 先進的な教育を行うための研究力の強化戦略を策定する</p> <p>(ウ) 教育の質の向上、研究の高度化、社会や地域の課題解決につながる研究、海外研修先の開拓について支援する</p> <p>(エ) 自治体、企業との共同研究を進める</p> <p>(オ) 教員・学生のベンチャー企業設立、スタートアップへの支援策の策定と支援の実施</p>
<p>⑤ 教員の確保</p> <p>(ア) 教育・研究・社会貢献に見識と実行力のある若手教員の計画的な確保</p> <p>(イ) 基幹教員制度を活用した民間企業からの実務家教員の確保</p> <p>(ウ) 企業、省庁、自治体などの高い専門性を持った実務家を客員教員、非常勤教員として活用</p>	<p>⑤ 教員の確保</p> <p>(ア) 2026年度教員採用計画を策定し、計画に沿って採用を行う</p> <p>(イ) 基幹教員制度の導入の研究と大学・企業経験者の採用を進める</p> <p>(ウ) 時代の求める教育を実施するために必要な実務家教員の採用を進める</p>

<p>⑥ 多様な学生への支援策の充実とダイバーシティの推進</p> <p>(ア) 部・サークル活動の活性化と部室など活動の場の整備・充実</p> <p>(イ) 学友会活動の活性化</p> <p>(ウ) アドバイザー教員、保健センター、カウンセリングルーム等が連携した相談機能の充実と休学・退学防止対策の実施</p> <p>(エ) 学生の視点に立ったキャンパス環境の整備</p> <p>(オ) 学生本位の特待生制度の見直しと特待生への支援策の充実、出口プログラムの明確化</p> <p>(カ) 「外国人留学生受入と日本人学生海外留学のための中期方針」の着実な実施、</p> <p>(4) 基本戦略Ⅳ 地域発展、地方創生への貢献</p> <p>① 地域発展・地方創生への貢献</p> <p>(ア) ふじのくに地域・大学コンソーシアム中期方針・年度計画に掲げられた事業の活用とコンソーシアム事業推進への積極的な協力</p> <p>(イ) 総合研究所機能を活用した教育・研究・地域貢献活動の実施</p> <p>(ウ) 藤枝市、磐田市との定期的な情報交換、協働事業の実施、両市から提案された課題解決研究の実施などによるウェルビーイングの可視化等による市民の幸福感を高めるまちづくりへの貢献</p> <p>協定締結自治体との連携強化、新たな市町との協定締結</p>	<p>⑥ 多様な学生への支援策の充実とダイバーシティの推進</p> <p>(ア) 強化スポーツクラブの見直しとサークル活動活性化策を作り、計画に沿って進める</p> <p>(イ) 学友会組織の強化策・2025 年度計画を年度当初に策定し、計画に沿った活動支援策を実施する</p> <p>(ウ) アドバイザー教員と関係者が学生の面談記録を記載した学生個人ファイルを情報共有し、きめ細やかな学生指導を行う</p> <p>学部ごとに退学・休学理由を分析し、防止策を実施する</p> <p>(エ) 中長期的視野に立ち、本学らしい特色あるキャンパス環境を実現するため設置した「大学施設維持・管理検討委員会」において、計画を策定し、優先順位をつけて整備を進める</p> <p>(オ) 各学部で特待生の学びの強化策を実施し、特待生の就職先との関連を分析して見える化し、出口プログラムを明確化する</p> <p>強化スポーツクラブの特待生制度に関して、認定数、認定基準、運営基準の見直しを行う</p> <p>特待生制度を学生募集力の強化と連動させる</p> <p>(カ) 「中期方針」の見直しを行い、新たな「中期方針」に基づいて、留学生募集を実施する。新たな留学生募集先(大学等)を開拓する</p> <p>また「中期方針」に基づき、日本人学生の海外留学先を質・量とも充実させ、留学支援制度を整備する</p> <p>(4) 基本戦略Ⅳ 地域発展、地方創生への貢献</p> <p>① 地域発展・地方創生への貢献</p> <p>(ア) コンソーシアムの行う教育連携、地域貢献、国際交流などの事業を活用し、教育の質を上げる</p> <p>(イ) 大学の付置機関としての機能を生かし、地域社会との連携策を発展的に構築する</p> <p>研究員の調査研究を具体的に進める。学生の資格取得に資する講座を充実し、学生が受講しやすい制度を整備する</p> <p>教員の専門性を生かした受託事業を充実する。地域社会と結びついた学生の活動を支援する</p> <p>藤枝市・磐田市との連携事業を充実して実施する。</p> <p>(ウ) 藤枝市と連携し、「藤枝市民大学」を軸に教育啓発活動を進める</p> <p>磐田市と連携し、「リカレント講座」「地域課題研究事業」を実施するとともに、市民の幸福感を高めるまちづくりに</p>
---	---

<p>(エ) 地域で活躍する学生の主体的活動への支援、大学コンソーシアム・地方自治体との協力</p> <p>(オ) 両キャンパスでの産業界、他大学、地域、行政機関等との連携した教育、事業、活動の展開</p> <p>② スポーツの振興・強化</p> <p>(ア) 静岡県唯一のスポーツ科学部が設置されている磐田市を、ブルーレヴズ、ジュビロ磐田などプロチームと連携し、新しいスポーツモデル地域となるよう連携した活動を強化</p> <p>(イ) スポーツ振興部による強化スポーツクラブの規程の整備及び適切な運営管理の徹底、強化スポーツクラブの学生による自主的な運営、全国レベル大会での上位成績を視野に入れた強化スポーツクラブ強化策の推進、地域スポーツ団体と連携したカレッジスポーツモデルの創設</p> <p>(ウ) 磐田市及び地域周辺の関連団体との連携による総合型スポーツクラブ事業(いわゆるスポーツクラブ)の発展、並びに他地域への支援・強化</p> <p>③ 教育研究のグローバル化、地域プラットフォーム化</p> <p>(ア)「SSU グローカルビジョン」の策定</p> <p>(イ) 企業や自治体などと連携したグローバル教育の推進</p> <p>(ウ) 藤枝市と連携した市民大学の実施とリカレント教育による大学の社会的責任の遂行</p> <p>(エ)「SSU リカレント教育ブランド」の創出</p>	<p>貢献する</p> <p>静岡市、菊川市、焼津市、島田市と連携した事業を実施するとともに、新たな市との協定締結を進める</p> <p>経営研究センター、保育研究センター、情報デザイン研究センター、日本語教育研究センター、スポーツ教育研究センター、スポーツ医科学研究センターの機能を活かし、地域社会の課題解決研究等を進める</p> <p>(エ) 学生の地域活動、ボランティアを支援する</p> <p>(オ) 各教職員と、商工会議所、市町、産業支援機関、報道機関などとの連携協力情報を見える化し、報道機関に情報提供、ホームページに掲載するとともに、今後の活動の展開につなげる</p> <p>② スポーツの振興・強化</p> <p>(ア) スポーツ科学部の学びの内容を充実し、学生募集力を強化し、入学定員増の具体策を検討し、実施する。</p> <p>県内プロスポーツチームとの連携を強化するとともに、磐田市をだれもが認めるスポーツのまちとなるよう支援する</p> <p>(イ) 強化スポーツクラブの運営規程を再整備し、本学らしい運営管理を徹底する。スポーツクラブを学生が自主的に運営できる仕組みづくりを行い、支援する。強化スポーツクラブのあり方、運営の見直しを行う</p> <p>(ウ) 静岡ブルーレヴズ、ジュビロ磐田、アザレア、静岡 SSU ボニータ、プレス浜松との連携を強化し、教育に生かす。スポーツスクール、スポーツクラブの運営、指導者派遣、健康増進教室、各種イベント運営を引き続き実施する</p> <p>③ 教育研究のグローバル化、地域プラットフォーム化</p> <p>(ア) 地域においてもグローバル化が進み、産業構造が変化する中、地域社会や企業が求める人材像を明確化し、質の高い教育を推進するSSUグローバルビジョンを副学長をキャップに外部人材の参画も得て策定する。</p> <p>策定したビジョンを実践する</p> <p>(イ) 企業や自治体と連携した実学授業を各教員が積極的に実施する</p> <p>「冠講座(寄付講座)」を新規開拓する</p> <p>(ウ) 藤枝市と連携し市民大学講座の充実を図り、リカレント教育を拡充推進する。</p> <p>(エ) 本学の特色を生かしたリカレント教育構想を策定する</p>
---	--

<p>(オ)総合研究所を軸とした専門人材の育成</p> <p>(5)基本戦略V 大学運営のための財務基盤の確立</p> <p>① 収入の8～9割を占める学納金の基となる収容定員を上回る学生募集戦略の策定と着実な実施、離学者減少対策の実施</p> <p>② 入学定員・収容定員充足率、教職員数等 IR(Institutional Research)データと財務データの分析を踏まえ、中期計画、年度計画、アクションプラン等に効果的に反映する検証システム整備、学部別収支改善に向けた効率化と合理化</p> <p>③ 「私立大学等改革総合支援事業」、「少子化を支える新たな私立大学等の経営改善支援事業」等の公的補助金の着実な獲得</p> <p>④ 企業、自治体との共同研究、受託研究による研究資金、運営資金の獲得</p> <p>⑤ 施設維持・管理検討委員会による施設整備・修繕中長期計画の策定と地元企業への発注の徹底</p> <p>(6)基本戦略VI 大学運営の改善、効率化</p> <p>① スポーツ科学部と経営学部の有機的連携</p> <p>(ア)スポーツ科学部の発展に向けた構想策定</p> <p>(イ)経営学部の新たな学部構想の推進</p> <p>② 全学委員会、学部委員会、教授会が連携した学生サービスの向上</p> <p>(ア)藤枝・磐田キャンパスの各委員会組織の連携した運営</p> <p>(イ)キャリア支援の体系化と教職員が連携した組織的運営</p> <p>(ウ)教職センターによる教職課程の支援充実</p>	<p>(オ)総合研究所の客員研究員を活用し、地域で求められる専門人材の育成を行う</p> <p>(5)基本戦略V 大学運営のための財務基盤の確立</p> <p>①入学定員の1.3倍を目標とした学生募集戦略を策定し、できるものから実施する</p> <p>留学生編入生の募集戦略を国、海外大学ごとに策定し、戦略に沿って着実に実施する</p> <p>②年間総支出25.5億円を達成するための、学生数、補助金、手数料、寄付金、付随事業収入、雑収入確保戦略を作り、できるものから実施する</p> <p>③文科省などの公的補助金を着実に確保するとともに、新規助成制度への申請を行う</p> <p>④企業、自治体などとの共同研究を進め、大学の知名度を上げ、研究資金の確保に努める</p> <p>⑤中長期的視野に立ち、学生に魅力的なキャンパス環境を実現するため、施設整備・修繕中長期計画を作り、優先順位をつけて実施する。</p> <p>工事等の実施に当たっては地元企業への発注を徹底する</p> <p>(6)基本戦略VI 大学運営の改善、効率化</p> <p>① スポーツ科学部と経営学部の有機的連携</p> <p>(ア)2026年度以降のスポーツ科学部の教学構想を策定する</p> <p>(イ)経営学部の磐田キャンパス、藤枝キャンパスの将来計画の検討を進める</p> <p>② 全学委員会、学部委員会、教授会が連携した学生サービスの向上</p> <p>(ア)藤枝・磐田キャンパスの委員会が連携した運営ができるようにするため、必要があれば見直しを行う</p> <p>(イ)キャリア支援課、就職委員会で、キャリア教育方針を策定し、方針に基づき1年から4年まで切れ目のないキャリアプログラムを実施する</p> <p>キャリア支援スタッフとアドバイザー教員が学生の就職状況を共有し、早期に希望する企業などに内定が取れるよう支援する</p> <p>(ウ)他大学の事例を参考に、教育実習、教員採用試験に向けたマンツーマンサポートを引き続き実施する。</p> <p>教職を希望する学生の教職関係の授業受講状況、単位取得状況、教職資格取得・採用について分析し、学</p>
--	--

<p>(エ) 教学の DX 化の推進</p> <p>③同窓会、後援会との連携強化</p> <p>(ア) 学生の学修支援、就職実績向上に向けた後援会、同窓会の組織強化と連携強化</p> <p>(7) 基本戦略Ⅶ 中期計画の着実な遂行のための組織ガバナンスの強化</p> <p>① 組織ガバナンスと意思決定</p> <p>(ア) 学長方針に基づく年度計画(アクションプラン)の実施責任者(職員、教員)の明確化と着実な実施、監査結果を踏まえた PDCA 運営の徹底</p> <p>(イ) 全学諸会議、学部委員会の随時見直しと教職員役職への業務執行分担・責任の明確化によるガバナンスの明確化</p> <p>(ウ) 理事長学長連絡会の定期的な開催と情報の共有</p> <p>(エ) 中期計画・年度計画に関する外部有識者の意見聴取</p> <p>(オ) 法人との連携による機動的な執行体制の維持</p> <p>(カ) 各種団体等が行う研修への職員・教員の積極的な派遣</p> <p>(キ) SD、FD による職員・教員のキャリアの各段階における能力強化</p>	<p>生の学年・個々の ニーズに合った支援を充実する</p> <p>(エ) ICT研究機構長がキャップとなり、教学システムのDX化を進める</p> <p>情報・データサイエンス教育の先進事例を調査し、情報・データ処理に強い学生の育成等に必要な機器整備を計画的に行う</p> <p>③同窓会、後援会との連携強化</p> <p>(ア) 各教職員と、商工会議所、市町、産業支援機関、報道機関などとの連携協力情報を見える化し、報道機関に情報提供、ホームページに掲載するとともに、今後の活動の展開につなげる</p> <p>(イ) 後援会に対する新たな情報提供、サービスについて 2025 年度の具体的な取組計画をつくり実施する</p> <p>同窓会名簿を整備し、30 周年事業に続く同窓会事業を計画・実施する。</p> <p>海外留学生同窓会の実績を踏まえ、留学生の同窓会の活動を支援する</p> <p>(7) 基本戦略Ⅶ 中期計画の着実な遂行のための組織ガバナンスの強化</p> <p>① 組織ガバナンスと意思決定</p> <p>(ア) 年度計画(アクションプラン)の実施責任課、委員会を明確化し、年度当初に、担当課・委員会で年度計画を策定し、アクションプランにより進捗管理を行う</p> <p>(イ) 全学諸会議、学部委員会を随時見直しとともに、役職員、役職教員の業務分担・責任を明確化し、機能的で透明性の高い大学運営を行う</p> <p>(ウ) 理事長学長連絡会を原則毎週開催し、情報の共有化と連携した大学運営を行う</p> <p>(エ) 中期計画・年度計画に関して、理事会・評議員会に加え、外部のステークホルダーの意見を聴く仕組みを研究する</p> <p>(オ) 法人事務局と連携し効果的な大学運営を行う</p> <p>(カ) 先進的な教育・大学運営を行うため、職員・教員を研修に積極的に派遣し、研修結果の報告会を実施して、情報の共有を図る</p> <p>(キ) SD、FD 研修を見直し、職員、教員の能力強化につながる研修を実施し、学生満足が高く、ブランド力の高い大学としていく</p>
---	--

<p>② 人事評価制度の的確な実施</p> <p>(ア) 教育職員人事評価規程の着実な実施と人事処遇資料としての蓄積</p> <p>(イ) 新静岡学園事務職員人事評価規程に基づく人事評価の実施と人事処遇資料としての蓄積・活用</p> <p>③ リスクマネジメント</p> <p>(ア) 大学 BCP 策定</p> <p>(イ) 包括協定を締結している自治体、地方団体との協力・連携によるリスクマネジメント体制の構築</p> <p>(ウ) 突発的危機への組織的対応を可能とするマネジメント体制とガバナンス体制の構築</p>	<p>② 人事評価制度の的確な実施</p> <p>(ア) 教育職員人事評価規定に基づき、適切な評価を行うとともに、人事処遇資料となるよう、必要に応じた見直しを行う</p> <p>(イ) 新静岡学園事務職員人事評価規程に基づく人事評価を実施し、人事処遇資料としての蓄積・活用し、満足度の高い職場づくりを進める</p> <p>③ リスクマネジメント</p> <p>(ア) 2022 年に策定した大学 BCP に基づき発災時等の初動対応を適切に行うとともに、発災後の復興計画、大学の教育・研究事業の継続計画を整備して、全教職員、全学生に示し、研修・訓練を通じて徹底するよう、努めていく</p> <p>(イ) 協定を締結している藤枝市、磐田市、静岡市、島田市、焼津市、菊川市との間で、教育、人材育成に加えて、実行のあるリスクマネジメント体制の構築を進める。</p> <p>(ウ) 突発的危機への適切な対応ができるよう、組織的訓練を行い、マネジメント体制とガバナンス体制について、必要な見直しを行う</p>
--	--